

令和2年11月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和2年11月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

八戸市と仙台市の沿岸部を結ぶ復興道路「三陸沿岸道路」（総延長 359 キロ）のうち、階上 IC～洋野種市 IC（7 キロ）が 12 月 12 日に開通することとなりました。

青森県内の三陸沿岸道路については、八戸南環状道路（八戸 JCT～八戸南 IC）及び八戸南道路（八戸南 IC～階上 IC）が 2014 年 3 月までに開通済みで、今回の開通により、青森県内区間（八戸 JCT～岩手県境）は全線が開通することとなります。

来年度には三陸沿岸道路の全線が開通予定であり、各方面での効果が期待されます。

◆三陸沿岸道路の詳細はこちらをご覧ください（国土交通省東北地方整備局）

<http://www.thr.mlit.go.jp/road/fukkou/content/road/sanriku/>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館 5 階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸11月号 レポート

令和2年10月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	是川縄文館 11月3日は「是川縄文の日」
(2)	YSアリーナ八戸 開館1年で来館者18万人
(3)	県内唯一の震災伝承施設「みなっ知」 来館者数5万人突破
(4)	八戸市公式キャラ「いかずきんズ」 パソコンとスマホ用壁紙制作
(5)	八戸市営バス・南部バス 2022年ICカード導入へ
(6)	「史跡根城の広場」 来場者46 (しろ) 万人達成

【産業】

記事	概要
(7)	老舗和菓子店・萬榮堂 新商品「幸せの地蔵まんじゅう」発売
(8)	八戸市中央卸売市場 巨大マツタケ入荷
(9)	八食センター "8色"展開の「八食カレー」販売
(10)	三沢-東京線1日4往復に ～待望の増便 運航開始～
(11)	2020年度上半期 八戸港フェリー旅客半減

【地域】

記事	概要
(12)	八戸聖ウルスラ学院高の福嶋さん 英検1級一発合格
(13)	八戸水産高 アカイカ缶詰を試作 改良し製品化へ
(14)	蕪島海水浴場に"サンドアート"出現
(15)	八学大で「被爆ピアノ」コンサート ～平和の尊さ 旋律に乗せ～
(16)	「陸奥湊観光案内所」新設 地元住民らがボランティアで運営

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	三戸出身の溝口さんが歴史小説「永遠の卑弥呼」執筆
(18)	第80回国民スポーツ大会 2026年青森県開催が内定
(19)	プロ野球ドラフト会議 八学大の左右エースがプロの舞台へ
(20)	「八戸えんぶり」 例年通り2月開催

【行政】

記事	概要
(1)	<p>是川縄文館 11月3日は「是川縄文の日」</p> <p>八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館は、毎年11月3日を「是川縄文の日」、11月を「是川縄文普及月間」に設定した。是川遺跡は1920（大正9）年11月に最初の発掘が行われ、今年が発掘100年の節目。毎年11月1～7日が文化庁の「文化財保護強調週間」であることや、他イベントとの相乗効果が期待できることなどから、「文化の日」である3日を「是川縄文の日」とした。同遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が最短で2021年にも世界遺産登録される可能性があり、同館は記念日設定を契機に登録へ向けた市民の機運を高めていきたい考えである。</p>
(2)	<p>YSアリーナ八戸 開館1年で来館者18万人</p> <p>八戸市立屋内スケート場「YSアリーナ八戸」は、2019年9月のオープンから1年が経過し、供用開始から1年間の来館者数は約18万人に上った。大規模大会として2019年10月に全日本距離別選手権、今年1～2月に国体冬季スケート競技会の会場となった。両大会の期間中は選手や監督のほか、大勢の観客が来館し、飲食や宿泊業者らにも恩恵があったとされ、八戸市は両大会の開催で計約10億円の経済効果が出たとの試算を示す。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大による影響もあり、多目的アリーナとして活用する期間で大きな収入源となるイベント利用はゼロとなった。市財政の重荷となる維持管理費も当初見込みより膨らんでおり、これら課題の解決に向けた対応が急務となっている。</p>
(3)	<p>県内唯一の震災伝承施設「みなっ知」 来館者数5万人突破</p> <p>八戸市みなと体験学習館「みなっ知」の来館者数が10月3日、5万人を突破した。みなっ知は、2007年10月に無人化された旧八戸測候所を市が国から取得して改修したもので、2019年7月にオープン。東日本大震災などの展示に関する案内員が配置された「第3分類」として、青森県内唯一の震災伝承施設となる。節目の来館者となったのは、市豊崎児童館の幼児とそのきょうだい、保護者ら22人。同館で記念セレモニーが開かれ、館長から証明書と記念品の防災食が贈られた。</p>
(4)	<p>八戸市公式キャラ「いかずきんズ」 パソコンとスマホ用壁紙制作</p> <p>八戸市は、公式マスコットキャラクター「いかずきんズ」の壁紙を制作した。10月16日にパソコン向けの壁紙をリリースし、10月23日からはスマートフォン用の画像がダウンロード可能となった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で市内のイベントなどが減少し、いかずきんズの活動も「制限」され、市民が目にする機会が減っているのを踏まえて制作した。壁紙は、パソコン用を25種類、スマホ用を19種類制作。いずれも市のホームページの「マスコットキャラクター」ページ内から無料でダウンロードできる。</p>
(5)	<p>八戸市営バス・南部バス 2022年ICカード導入へ</p> <p>八戸市営バスを運行する市交通部と、「南部バス」事業を運営する岩手県北自動車（盛岡市）は10月21日、全てのバス路線にSuica（スイカ）機能が使える交通系ICカードを導入すると発表した。両事業者は独自サービスとして、乗り継ぎ割引やポイント付与などの特典についても検討する。ICカードの導入後は、利用客の乗降データを把握できるメリットを生かし、適切なダイヤ見直しや路線再編などに反映させることも可能になるという。ICカードの名称やデザインなどは来年以降に検討を進める予定で、2022年春のサービス開始を目指す。</p>

(6)	<p>「史跡根城の広場」 来場者46 (しろ) 万人達成</p> <p>八戸市の「史跡根城の広場」の来場者が10月24日、46万人を達成した。同広場は1994年10月、発掘作業を基に復元しオープン。城としての機能が最も充実した安土桃山時代の姿が忠実に再現され、専門家が選定した「日本100名城」にも指定されている。「46 (城)」の語呂合わせとした節目の来場者となったのは、東京都から訪れた大学研究員の張乃忠さんら中国人3人。この日、主殿前で開かれたセレモニーで記念品を贈り、盛大に節目を祝った。</p>
-----	---

【産業】

記事	概要
(7)	<p>老舗和菓子店・萬榮堂 新商品「幸せの地蔵まんじゅう」発売</p> <p>八戸市の櫛引八幡宮前にある和菓子店「元祖鶴子まんじゅう萬榮堂」が、新商品「幸せの地蔵まんじゅう」を10月10日に発売した。1世紀続く老舗にも新型コロナウイルス禍の逆風が吹き、3代目代表の松田智司さんも一度は商品化を諦めかけたが、夢枕に立った地蔵がにこにこ笑いながら、まんじゅうを食べている姿を見て、前を向き、新商品開発に乗り出した。完成した幸せの地蔵まんじゅうは粒あん仕立てで、北海道産の小豆を使用。黒糖風味の生地はもちもちした食感が特徴で、一つ一つを手作りで提供する。新商品の販売場所は萬榮堂のみ。価格は1個110円、6個入り商品は780円 (いずれも税込み)。</p>
(8)	<p>八戸市中央卸売市場 巨大マツタケ入荷</p> <p>八戸市中央卸売市場で10月5日、重さ約500グラムの巨大マツタケが競りにかけられた。今シーズンはマツタケが大豊作で、この日は140キロと今年一番の入荷量となった。巨大マツタケは久慈市で採れた物で、かさの直径は約25センチ。めったにお目に掛かることのないサイズで、市場関係者の注目を集めていた。競り落とした八戸農産加工の大久保和夫営業部長は「飾っても見栄えがする」と誇らしげ。八戸市内の料理店に卸す予定だという。</p>
(9)	<p>八食センター "8色"展開の「八食カレー」販売</p> <p>八食センターが8月30日から販売しているレトルトパウチの新商品「八食カレー」が大きな話題を呼んでいる。「八食」にちなんで「8色」(8種類の味)を展開し、いずれも青森県産食材を使用。色のバリエーションだけでなく、パッケージのデザインにもこだわり、地元客や観光客から好評を博している。8種類は辛い順に、ゴボウ、ニンニク、トマト、ホウレンソウ、カシス&アピオス、トウモロコシ、ニンジン、リングで、風味や辛さのバリエーションを増やし、幅広い世代に好まれるように工夫した。8種類とも価格は1個500円 (税込み)。</p>
(10)	<p>三沢-東京線1日4往復に ~待望の増便 運航開始~</p> <p>三沢空港発着の三沢-東京 (羽田) 線が10月25日、1日3便 (3往復) から増便し、4便 (4往復) 運航を始めた。同空港の東京線の4便体制は2002年12月に減便して以来、約18年ぶり。増便は5月に羽田発着枠を地方空港が競う国土交通省の政策コンテストで決定。三沢は2021年3月末から1年間、下地島 (沖縄) と共に配分先を決めるための実績評価を受けることになり、準備に向けての暫定運航が認められた。青森県南地方の「空の玄関口」は、より利便性の良い交通拠点へと前進する。</p>

(11)	<p>2020年度上半期 八戸港フェリー旅客半減</p> <p>青森県フェリー埠頭公社が、2020年度上半期（4～9月）の八戸港と青森港の旅客、車両航送の実績を公表した。八戸港の旅客航送実績は10万9537人で新型コロナウイルスによる旅行自粛などが影響し、前年同期比46.9%減とほぼ半減。車両航送は、トラックは0.4%増となったが、乗用車が54.4%減、バスが72.6%減と大きく落ち込み、合計では17.7%減となった。青森港の旅客航送は51.4%減、車両航送は28.3%減だった。</p>
------	---

【地域】

記事	概要
(12)	<p>八戸聖ウルスラ学院高の福嶋さん 英検1級一発合格</p> <p>今夏に行われた本年度の実用英語技能検定（通称・英検）で、八戸聖ウルスラ学院高英語科3年の福嶋南美さんが最難関の1級に合格した。英検1級は1次試験の筆記とリスニング、2次試験の面接の結果で合否を判定する。難易度は大学上級相当で、英語の知識のほかに、対話相手への発信力や対応力が問われる。2次試験で福嶋さんは、世界の子どもの労働問題について試験官と議論し、高いコミュニケーション能力を発揮し、見事一発で合格した。</p>
(13)	<p>八戸水産高 アカイカ缶詰を試作 改良し製品化へ</p> <p>八戸いか釣漁業協議会は10月13日、湊町の直売施設「浜市場・みなとつと」で、県立八戸水産高が試作した国内では珍しいアカイカの缶詰の試食会を開いた。アカイカは国内の水揚げの大半が八戸港で、漁獲低迷が続くスルメイカに代わる加工原料として漁業関係者の注目度は高いが、地元水産業界での活用度はいまひとつ。同校では、アカイカの胴体を材料に、しょうゆ味としょうが、唐辛子、2%食塩水の水煮と、4種類を試作した。出席者の評価は良好で、同校は寄せられた意見を基に今後も改良を重ね、来年度中の製品化を目指す。</p>
(14)	<p>蕪島海水浴場に"サンドアート"出現</p> <p>八戸市鮫町の蕪島海水浴場に出現した"サンドアート"が、訪れた市民らの話題となっている。制作するのは同市の城前風吾さん(30)。「暇つぶし」で8月ごろに始め、これまでに20個以上の作品を完成させた。デザイン、制作方法などは独学で、道具も定規やスコップ、バケツなど身近な物を使用。作業は全て1人で行い、4時間程度で完成させる。多くが2、3日で波などによって崩されるといだが、「作品が残っていると場所がなくなってしまうので、壊れてしまっても問題ない」と城前さんは笑う。</p>
(15)	<p>八学大で「被爆ピアノ」コンサート ～平和の尊さ 旋律に乗せ～</p> <p>広島市へ投下された原子爆弾で被爆したピアノを使用したコンサート「未来へつなぐ平和の願い」が10月21日、八戸学院大短期大学部で開かれた。コンサートは、被爆ピアノを調律しながら全国各地を巡回している矢川光則さんを前に、幼児保育学科の1、2年生がピアノを演奏する形で開かれた。学生は伴奏に合わせ、原爆の悲惨さを伝える絵本の朗読や、平和の祈りを込めた合唱などを披露。それぞれが戦争のむごさを後世に伝える思いを新たに。被爆ピアノと矢川さんは同日以降、市内の学校などを訪問し、10月25日には「はっち」でコンサートが開かれた。</p>

(16)	<p>「陸奥湊観光案内所」新設 地元住民らがボランティアで運営</p> <p>八戸市湊町のJR八戸線陸奥湊駅近くに新たに「陸奥湊観光案内所」が開設された。同駅内に入っていた観光案内所が9月末に閉鎖したことを受け、駅周辺の関係者らで組織する陸奥湊駅通り地区まちづくり協議会が10月1日、市営魚菜小売市場のほぼ向かいに開設。案内役のボランティアが常駐するほか、休憩スペースを設けてコーヒーも販売する。10月17日にはオープンを記念し、せんべい汁と煮干しだしの「陸奥湊ラーメン」を販売した。開設時間は午前5時～正午で、毎週日曜日と第2土曜日は休み。</p>
------	--

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p>三戸出身の溝口さんが歴史小説「永遠の卑弥呼」執筆</p> <p>東京都で税理士事務所を経営する溝口禎三さん（三戸町出身）が執筆した歴史小説「永遠の卑弥呼」が9月に春燈社（東京）から刊行された。趣味として作劇術の講座に通い、戯曲の執筆もしていた溝口さんが、歴史小説を書くきっかけとなったのは、数年前、古代中国の史料「魏志倭人伝」に関する解説書「かくも明快な魏志倭人伝」との出会いだった。その後、専門家の指導を受けながら古代史や日本神話を研究。文献を基にした考察に自身の創作を組み合わせ、350ページを超える長編を書き上げた。価格は2860円（税込み）で、全国の書店で販売中。</p>
(18)	<p>第80回国民スポーツ大会 2026年青森県開催が内定</p> <p>日本スポーツ協会は10月8日の臨時理事会で、2026年の第80回国民スポーツ大会の冬季大会と本大会について、青森県での開催を内定した。当初、第80回大会は、2025年の県内開催が内々定していたが、今年開催予定だった鹿児島国体と全国障害者スポーツ大会が新型コロナウイルスの影響で2023年に延期になり、以降の大会は1年ずつ順送りになる方向となった。県内で完全大会が開かれるのは、全国初の完全国体として開催された1977年のあすなろ国体以来、2度目となる。</p>
(19)	<p>プロ野球ドラフト会議 八学大の左右エースがプロの舞台へ</p> <p>10月26日に都内で開かれたプロ野球ドラフト会議で、八学大の右腕大道温貴投手と左腕中道佑哉投手に吉報が届いた。大道は広島が3位、中道はソフトバンクが育成2位で指名した。同大からの2人同時指名は10年ぶり。新型コロナウイルス感染症の影響で思うように試合ができなかった今季のチームを背負ってきた2人は、恩師や家族への感謝を胸に、夢の舞台での飛躍を誓った。また、NTT東日本の佐々木健投手（つがる市出身）が西武2位、青森山田高の川原田純平内野手がソフトバンク4位でそれぞれ指名された。青森県関係で4人が指名されたのは2年連続。</p>
(20)	<p>「八戸えんぶり」例年通り2月開催</p> <p>八戸地方えんぶり保存振興会は10月28日に総会を開き、来年2月17～20日の「八戸えんぶり」を例年通り開催する方向性を確認した。同振興会によると、神事の奉納摺りやえんぶり行列のほか、御前えんぶり、かがり火えんぶりなどの各行事も実施する。市中心街でえんぶり組が競演する「一斉摺り」に関しては、参加組数に応じて例年より会場を広げることも検討する。更上閣が会場の「お庭えんぶり」は、例年の4日間日程を変更して2月19、20の両日開催とし、公演数も各日2回に見直し、1公演当たりの席数は60席程度に減らす。新型コロナウイルスの感染状況や国・青森県の指針により、行事内容の変更などが必要になった場合はその都度、関係者が協議する方針。</p>